Museo de Naturales de Geihoku

高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 18 号
2005.6.1
高原の自然館

苅尾（かりお）とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが，地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています．

もくじ

おしらせ

–スタッフのページを公開

活動報告

–サクラソウの保全活動
–原生林バードウォッチング
–カキツバタの里づくりへ向けた地域の取り組み

読者サロン

–テーマトーク
「芸北の春，ここが好き！」

観察会案内

–阿佐山の植物と昆虫
–八幡湿原再生プロジェクト 夏の植生調査

花だより

–カラコギカエデ
–エゴノキ
–アサガラ

おしらせ

スタッフのページを公開しています（2005.5.15）

今年度から加わった 2 名を含む，スタッフのページを公開しています．スタッフの日常から八幡の四季の移り変わりを感じてください．

【やなちゃんの気まぐれ日記】

http://shizenkan.info/staff/nobuko/

【かずこさんの blog これから！】

http://kbunasato.exblog.jp/

【みうらや謹製 晴耕雨読】

http://miwraya.exblog.jp/

活　動　報　告

サクラソウの保全活動

開催日時：2005 年 5 月 8 日（日）9：30
講師：サクラソウを育てる会

お天気の日曜日，いつも通い慣れた八幡から美和に場所を移しての観察会です．今年はサクラソウの開花が 5 日ほど遅いそうで，ちょうど見頃となりました．今日の会では，サクラソウの生態を観察し，サクラソウを保存するための地元の取り組みを聞きながら，今後の活動についてみんなで考えることが目的です．

まずは美和東文化センターで，「サクラソウを育てる会」の会長，下杉孝さんからサクラソウについての説明がありました．芸北では八幡と美和の 2 ヵ所でサクラソウが見つかっていますが，遺伝子を使った最新の調査によると，これら二つのサクラソウはルーツが異なるようです．美和のサクラソウはもともと自生していたものですが，八幡のサクラソウは，もともと埼玉に自生していたものが，人の手などによって持ってこられたもののようだというのです．さらに，美和のサクラソウは，遺伝的に見ると日本の他の地域のどことも異なっており，独自の系統を作っているそうです．広島県の絶滅危惧 I 類に指定され，日本でも生息地が非常に限られているサクラソウが，美和では細々と独自の系統を作りながら生き残っていたということに，参加者のみなさんは感心されていました．

しかし，実際に現地に移動してみると，サクラソウはごくわずかであり「周囲にもあると考えていたが，限られた範囲しかなく驚いた」「業者の盗掘が心配」といった声も聞かれました．座談会の場では，参加者の口から「草刈りが必要」「花が咲いている時期，葉が茂る時期の光の照度を一定に保つため，枝打ち，伐採を行う必要がある」「4m までは枝打ちしては？」といった意見が出ました．確かに，現在の生息地は日照が少なく，サクラソウにとってはちょっと暗いように見えました．その他にも「美和のサクラソウも，家で栽培して遺伝子資源を保全する方向で考えてはどうか？」など，美和のサクラソウを保全するための積極的な意見が出されました．しかし「基本的には生息地の保全が第一である」「不用意に持ち出して栽培しては，他の地域から持ってきたサクラソウと交雑する危惧がある」などの意見も出されました．まずは，葉がいつごろまであるのかということや，結実の状況を研究する必要がありそうです．その上で，地元の「サクラソウを育てる会」が基本的な保護方針を立て，広くボランティアなどと協力しながら保全を進めよう，という結論となりました．「サクラソウを町の天然記念物にしてはどうか？」という意見も，遺伝的な研究結果や全国における分布状況を見ると，十分に的を射たものであり，美和地域の今後の活動が楽しみです．　（白川 勝信）

美和東文化センターは，美和東小学校が美和小学校へ統廃合された後の木造校舎を改修した宿泊・研修施設.

この日，町内の雄鹿原小学校から５年生が参加した．サクラソウは国語の教科書に取り上げられている．

自生地に移動して，サクラソウの現状について観察する．

説明をして下さった「サクラソウを育てる会」の下杉会長．

子供達も，掘れた溝，マルハナバチ，日照の状況など，サクラソウの生息環境について観察した．

サクラソウを育てる会が栽培を行っている圃場を見学．

再び美和東文化センターに戻って，サクラソウの生態や保全，今後の活動について活発な議論が行われた．

活　動　報　告

原生林バードウォッチング

開催日時：2005 年 5 月 14 日（土）5：00
講師：内藤順一
参加人数：14 名

早朝にもかかわらず．熱心な 30 名の方々の参加．昨年までの車道を下るルートではなく．雪霊水からまっすぐ掛頭山へ向かう登山道に入り．鳥の鳴き声を聞く．先生からは「今．シロハラ鳴きました」との解説．今年久しぶりに来町したとか・・・．声を聞き分けることの大切さを実感 !! ヤマドリのドラミングがやけに近く．が姿は確認できず．フンを確認．稜線からの合流点を U ターンして登り．苅尾山の山頂へとでる．カッコウの托卵の話やホオジロが卵を見分ける話など．下りの階段付近でゴジュウカラの巣穴発見．しばし．帰りを待つが・・・警戒して帰らず．バードウォッチングの難しさをいろいろと実感した．（柳崎誠子）

【声の確認】

シロハラ・コルリ・マミジロ・クロツグミ・モズ・ツツドリ・イカル・アオバト・アカゲラ・アカショウビン・ミソサザイ

【その他】

ヤマドリ (ドラミング・フン)・ゴジュウカラ (巣穴)

早朝から熱心な参加者．

今，シロハラが鳴きました．

ブナ林の中，声を聞き分けながら？進む．

枝先の鳥発見！！

ゴジュウカラの巣穴発見．帰りを待つ．

あちらの声，こちらの声にきょろきょろ．

穴の周囲を土で固めて，自分サイズにしている．

ヤマドリのフン．鳥のフンは尿酸を含んでいて白い．

本日のまとめ．

活　動　報　告

カキツバタの里づくりへ向けた地域の取り組み

開催日時：2005 年 5 月 29 日（日）9：30
講師：カキツバタの里づくり実行委員会

「環境保全」というタイトルに臆されたのか ,8 人という少人数の観察会になりました .湿原を歩くには丁度良い人数なのですが, コーディネーターは緊張しますね .

はじめに自然館の中で昭和初期の写真や湿原の分布図を見ながら , カキツバタを取り巻く環境についてお話しました . 基礎知識を頭に入れて頂いた後 ,「カキツバタの自生する水口谷湿原」「自生地そのものが消失してしまったあやめ池湿原」「環境が悪化しつつある私有地の湿原」の順に観察していきました . 大きなテーマはカキツバタだったのですが , アズキナシ , ガマズミ , オトコヨウゾメ , ヤブデマリなどの白い花やヤマドリゼンマイの鮮やかな新葉を楽しんだり , 大きなオオナルコユリの芽生えに驚いたりしながら湿原を歩き増した . どの湿原にも共通して言えることは , カキツバタが置かれている環境というのは必ずしも良いものではなく , むしろ , 八幡は自然のカキツバタにとって住みにくい場所になっている , ということでした .

自生地を見学した後には , カキツバタの里づくり実行委員会が整備してきた休耕田に行きました . たくさんのカキツバタがきれいに咲きそろい , これまで見てきた３つの湿原とは全く違った様相でした . あぜ道を歩きながら周辺の植物を観察したり , 植物の繁殖戦略の話をしたりしました . その後 , 会長の川内さんから会の敬意や今後の課題について話を頂きました .

自然館に帰ってからはそれぞれの感想を出し合いました . 少人数で寂しい観察会になるかと思いきや , 濃度の高い半日になりました .　　（白川 勝信）

【参加者の感想】

「湿地は尾崎沼等しか知らなかったので , 本日入った場所は新鮮でしたし , もう一度千町原を見直せたと思います .」「カキツバタは八幡湿原には欠かせない重要な植物だと再認識した . どう守るかしっかり考えたい . 守り方にはいくつかのグレードを考えたい .A: 現在の生育環境を維持する B: 生育環境をもっと促進させる C: 人口栽培により観光資源化する」「水口谷湿原のまわりからの低木の侵入が気になった . やはりアノ場所もだんだん小さくなっていくのでしょうか .」「昔と今 , 知ることが出来たこと収穫です . 自然の姿 (水口谷) に親しみを覚えました .」「当研究会もボランティアとして参加してはどうか .」

はじめに訪れたのは水口谷．ここはハンノキの下にカキツバタが見られる．自生のカキツバタに一同感心.

あやめ池湿原は圃場整備で消失してしまった．今は見る影もないカキツバタ自生地跡に，言葉を失う．

最後にカキツバタの里を見学した．休耕田を利用して作られたかきつばた畑をぐるりと一周する．

とある私有地に成立している湿地．わずかながらカキツバタも咲いていた．

川内さんにお話を伺った．取り組みの内容，ボランティアの構成などについて説明を受ける．

湿地の上流部は乾燥している．植林が伐採されており，材にする際に取り去った枝が敷き詰められていた．

最後は自然館に戻って座談会．カキツバタを見る眼が，少し変わったのではないだろうか．

観　察　会　案　内

阿佐山の植物と昆虫

開催日時：2005 年 6 月 19 日（日）9：30
集合場所：清流の家
講師：岩見潤治・暮町昌保・斎藤隆登・佐久間智子・和田秀次
準備：山を歩ける服装，弁当，雨具，双眼鏡，ルーペ，図鑑，メモ，おやつ 等
定員数：30 名
参加料：300 円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

芸北東部にある阿佐山では，ブナの二次林が見られ，八幡とは異なる様相を示します．昨年は台風を警戒して中止となった観察会です．ぜひご参加ください．

主催：西中国山地自然史研究会
協力：高原の自然館，芸北文化ホール

八幡湿原再生プロジェクト 夏の植生調査

開催日時：2005 年 6 月 26 日（日）9：30
集合場所：高原の自然館
準備：作業のできる服装，長靴，弁当，雨具，ルーペ，図鑑，メモ，おやつ 等
定員数：30 名
参加料：無料

あぜ波を設置してから一年．植生に変化は現れたのでしょうか？湿原を復元することは可能なのかどうかを検証する活動も 4 年目です．調査は初めてという方でも問題ありません．湿原のことを，すこーし詳しく観察してみませんか？

主催：西中国山地自然史研究会
協力：高原の自然館，芸北文化ホール

※ 談話・懇親会を開きます！

調査の前日に懇親会を開きます．湿原のこと，八幡のこれからのことについてゆっくりお話しませんか？民宿にも泊まれます．

開催日時：2005 年 6 月 25 日（土）19：00
会場：ぶなの里
参加料:2,000 円（宿泊の場合は＋ 4,300 円）

読　者　サ　ロ　ン

このコーナーではみなさんから頂いたお便りをご紹介します．

テーマトーク

今回のテーマは，『梅雨だけど，芸北にはコレがある！』です．それでは，コメントを紹介します．

『梅雨だけど，芸北にはコレがある！』

あらーきー さん

梅雨の芸北で驚くのは，かりお山を漂う，霧の中の森の風景だろう．ブナやナラ等の個性的な木々が，濃密な霧の中で『個性』を発揮している．普段は見過ごしてしまいがちな一本一本の樹が，霧の濃さ故に背景を処理され，まるでかりお山が木々の劇場になってしまったかのようだ. 樹を見つめるという事は，その樹が内報している過去という時間を見つめ，想いを馳せるという事だろう．梅雨のかりお山には，止まっているかのような，濃密で静かな『時』を体感出来る豊かな空間が広がっている．

写真士さんらしいコメントですねー．梅雨だから見えるもの，というのが確かにあるんでしょうね．

それでは，今月もテーマを．

今月のテーマは，

『野外でオススメの一品』です．

山に登る時，ピクニックをする時，写真を撮る時，「コレ，いいよ」というものがあれば教えて下さい．ちなみに，僕の今年のオススメはインド綿のラグマットです．ビニールシートよりも断然座りが良いですよ．お気に入りの柄を見つければ気分も変わります．お試しあれ・・・．

もちろん，テーマ以外のお便りもお待ちしてます．

花　だ　よ　り

カラコギカエデ

カエデの仲間では一番遅く咲くのではないでしょうか．湿地のまわりに見られ，紅葉こそしませんが，花が終わった後の実がかわいく色づきます．

エゴノキ

びっくりするほどたくさんの花を付けます．実にはエゴサポニンという毒があり，かつては毒漁に使われたそうです．今はもちろん禁止です．

アサガラ

谷筋などに咲くエゴノキの仲間です．エゴノキほど沢山花を付けないので見落としがちですが，花はエゴノキに負けずきれいです．

― インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い ―

苅尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています．印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます．さらに e-mail なら，関連ホームページを見たり，そのまま返事をすることで観察会の申し込みができたり，とっても便利です．パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます．まずは高原の自然館ホームページをご覧下さい．

高原の自然館ホームページからは，苅尾電波塔（紙版）の pdf ファイルをそのままダウンロードできます．郵送している紙版に比べ，鮮明なカラー写真を見ることができ，ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます．そこで, 高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています．今後，紙版の郵送が不要な方は，高原の自然館までご連絡ください．みなさまのご協力をお願いいたします．

【高原の自然館】http://shizenkan.info/

苅尾の山肌が黄緑や黄色の瑞々しいパッチワークから初夏の新緑に変わりました．朝夕は少し冷えますが，そろそろフリースをしまっても良さそうです．今年は特に雪が遅くまであったのですが, 夏は変わらずやってくるようですね．ただ，雨がほとんど降っていないのが心配です．自転車を乗るのには良いのですが，このままでは湿地も田んぼもどうなることやら．恵の梅雨はちゃんと来てくれるのでしょうか？できるなら観察会を避けていただいて...

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）
〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/
staff@shizenkan.info